



新規事業として「水産生産基盤整備事業」を導入し、波除堤や防風柵の整備及び浮桟橋等を整備することで漁業者の就労環境の改善を図ってまいります。製造業の振興につきましては、昨年度に策定した基本計画に基づき、特産品加工施設の試験・実証的稼働へ向け、商工会をはじめとする関係機関との連携強化を図ってまいります。

豊かな風土の中で育つ 「いしがき」

5. はぐくむ

教育委員会制度に関する「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が本年4月1日に施行されます。このことにより、教育の政治的中立性、継続性・安定性を確保しつつ、大綱及び総合教育会議を通して、教育行政における責任体制の明確化、迅速な危機管理体制の構築に向けて、教育委員会との連携を図ってまいります。

学力向上につつましては、地域全体で学力向上を図る「冠鷲プロジェクト事業」において、保護者・退職教員・高校生ボランティアや地域公民館・婦人会等のご協力をいただき、学校の授業終了後からスポーツ少年団などの活動開始前の隙間時間を利用した取り組みを行います。

本年度は、仮設校舎及び本体工事に着手し、来年度完成、再来年度の供用開始に向け、計画的に事業の推進を図るとともに、耐震化政策を強力に推進してまいります。

文化財につきましては、本市の豊かな自然と風土に育まれたものであることから、保護と継承を図るとともに、文化財愛護思想の高揚に努めてまいります。同時に、先人から引き継いだこれらの文化的資源を活用していくことも重要であると考えます。本年度は、9年ぶりに石垣-多良間間の航空路線が復活します。本市と多良間村との交流は歴史的にも長く、1771年の明和津波では、被害を受けた多良間島民の受け入れや食料提供などの支援を石垣島の人々が行っており、このことは、石垣市中央運動公園に「感謝の碑」として昨年、記念碑が建立されており、また、平久保半島東海岸には、多良間島の島民が琉球王府時代に稲作をしていた「多良間(たらま)田(だー)」という伝承の地があります。現在は、草木に覆われ、その跡を観察することは困難ですが、近年までは田の一部を確認することができたようです。この「多良間田」につつましては、次世代に向けた多良間村との交流の契機とするためにも、資料収集等を行ってまい

みや、長期休暇時における取り組みなどを通して、児童生徒に授業の予習・復習や家庭学習の習慣化を促進してまいります。

同時に、情報通信技術を活用したICT教育と情報モラル教育の充実を推進するため、知識基盤社会を生き抜く人材づくりとして、昨年度は、全学校にデジタル教科書を配備し、併せて、問題データベースを活用したプリント教材を拡充し、基礎学力の定着が図れるようにしました。更に児童生徒の個に応じたきめ細かな学習を支援するため、学校教育支援員を配置しました。

このような取り組みの結果、昨年度の全国学力テストにおいて、小学校の学力が大幅に向上し、県平均を上回る県内上位の成果を上げることができました。このことから、「冠鷲プロジェクト」につつましては、引き続き事業推進を図り、更なる学力の向上に資するよう取り組んでまいります。ICT教育につつましては、本年度は、小学校の教科書が新しくなるのと合わせてデジタル教科書を整備してまいります。

また、問題データベースの更新、学校教育支援員の配置数の拡充、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応えた特別支援教育の充実、タブレット型パソコンを活用したICT教育の推進による学力の向上、更に主体的な活動及び遠隔協働学習を取り入れた「21世紀型ス

ります。

人をもてなすふれあいの 「いしがき」

6. 交流

多くの観光客を受け入れている本市にとつて、人をもてなし、交流することは非常に重要であります。昨年は、種もみ交流を20年間続けてきた岩手県北上市と友好都市を締結致しました。本年は、ゆかりのまち締結15周年を迎える徳島県上板町、姉妹都市締結20周年を迎える台湾蘇澳鎮をはじめ、国内外のゆかりのまち・親善友好姉妹都市と文化・教育など今まで以上に交流を深めてまいります。同時に、本市は国際交流拠点都市を目指していることから、外国に対する市民の理解を深め、国際化を図るため、市内在住の外国人との情報共有や交流並びに次世代を担う中学生の姉妹都市カウアイ郡への派遣を実施してまいります。

女性が輝ける社会を目指し取り組みでまいります。男女共同参画につつましては、基本的な計画となる「第2次石垣市男女共同参画計画『いしがきプラン』」が目標年度を迎えることから、本年度はその成果を検証し、更に推進させるための「第3次いしがきプラン」策定に取り組んでまいります。

キル」を身に付けた人材育成を図り、学校教育の充実を努めてまいります。

ICT教育は教師のみならず、児童生徒に対しても学力向上に高い効果が出ていることから、本市の目指す学力県内トップレベルを達成するためにもICT支援員の配置、研修会の実施など学校支援事業も展開しながら推進してまいります。また、情報モラル教育の充実を図り、サイバー犯罪等へ巻き込まれない確かな知識や、より一層の道徳教育の推進とともに発達段階に応じた指導の充実を目指してまいります。

同時に、小学5・6年生による外国語活動が必修科目になったことに伴い、中学校だけでなく、小学校へ外国語学習支援員であるALTを派遣し、市立小中学校の外国語活動の充実、国際理解教育の更なる充実を図ってまいります。一括交付金を活用した「児童生徒派遣費助成事業」につつましては、昨年度は、スポーツや文化活動の各種大会への参加派遣費として延べ約4,000名の児童生徒に助成し、全国大会を含め各大会で優秀な成績を収めることに貢献できました。本年度も引き続き助成事業を実施し、児童生徒の技術力向上と保護者の負担軽減を図ってまいります。

学校施設整備につつましては、昨年度は「登野城小学校校舎新增改築事業」の実施設計に着手しました。

自立した行政運営の実現

7. 行財政改革

限りある予算と人員を最大限に有効活用し、市民サービスを効率的に提供するためにも、「民間にできるところはできる限り民間に委ねる」ことを基本に、指定管理者制度を推進してまいりました。今後も市直営の施設につつましては、積極的に指定管理者制度の導入を促し、併せてスポーツイベントにつつましても業務の一部委託など、引き続き取り組みを推進してまいります。また、公共施設につつましては、老朽化等の理由により、今後その多くが更新時期を迎えることとなります。しかしながら、この更新につつましては、昨今の厳しい財政事情並びに将来の人口減少の可能性も視野に入れて、計画的に実施しなければなりません。そのため、本市が所管する公共施設を総合的かつ計画的に管理していくための計画を、来年度の策定に向けて、本年度から着手してまいります。

自主財源の確保と財政の健全化につつましては、「納めやすい環境づくり」と「幅広い滞納処分」を通し、一昨年度の徴収率は92.1%となり、大幅に向上しました。昨年度の徴収率は、これを更に上回る率を維持しており、延滞金も含めると飛躍的な増収が見込ま

